

## 第 27 回庭野平和賞受賞記念講演

エラ・ラメシュ・バット

### 女性・仕事・平和

このたびの庭野平和賞の受賞を私は大変光栄に存じます。そして自営女性労働者協会 (SEWA) の姉妹たちを代表し、謹んでこの賞をお受けいたします。平和の意味に新たな定義を与えることで、平和に向けて日々励んでいる仲間たちに向けて、庭野平和賞はひとつの奮起を与えてくださったと私は思います。私たちの仲間や活動にご理解をいただき、ありがとうございます。私たちは平和と非暴力を固く結びつけてきました。平和とは非暴力であり、非暴力なくして恒久平和は得られません。戦争で獲得した平和は次の戦争までの間しか続きません。SEWA は、日々の生活の中で非暴力に徹することは、平和のない場所に出向いて平和を築くのと同じく尊いことであるということを知りました。貧しい人々を貧しいままにしておくことは暴力であり、平和とは言えません。平和と貧困は共存できないのです。貧困の存在を許しているところには、たとえ戦争そのものはなくても、その可能性は確実に隠れているのです。SEWA は貧困の撲滅を通して平和を築く道に取り組んでいます。

平和とは政府や外交政策だけの問題ではなく、日々の生活の中の出来事であること、そして女性たち——貧しい女性たち——が非暴力を守ることで、一步一步確実に平和構築に向けて貢献しているのだということ、——これまであまり多くお話をしてきたわけではありませんが、それこそが私たちの信念であります。平和の構築は、社会の底辺における日常的なプロセスを経ることではじめて可能になります。グローバルなプロセスはその促進のための手助けに過ぎません。平和は私たちの外にあるものではなく、私たち自身の内なる存在なのです。愛と配慮に基づいた前向きで建設的な行動、それらは皆平和の構築につながります。何百万人もの数多くの人々がそうした行動を起こせば、社会は平和になり、豊かになります。それは真新しいことではなく、ガンディーやキリストやブッダの教えのように古くから私たちの心の中にあるものです。しかし、私たちは大切なものごとに取り組む時、なぜかそのことを顧みることなく、忘れてしまっているのです。

SEWA における体験を通して私は、働いて収入を得て、生計を立てることが平和の実現につながることを知りました。平和は、人々が自分自身の収入や家族のために、日常生活の中でとる行動によって実現されます。平和は人から人へ、日々の生活を通して、一歩ずつ段階的に積み上げられていくものです。

SEWA において私たちは、かつてマハトマ・ガンディーからさまざまな方法で教えられた

ように、平和を民主化し、誰もが関わることのできるものにしようと努めてきました。

私のお話と考え方は、「女性・仕事・平和」の三つの簡単な言葉で表すことができます。そして、そのひとつひとつから、世界のありさまを知ることができるのです。

この厳粛な場をお借りして、その意味について少しお話をさせていただきたいと思います。

今日、私たちの世界は混乱の中にあります。国家間、民族間、政府とその国民の間には隔たりが存在し、いまも広がりつづけています。資源の分配が不公平なところには、社会不安が生まれ、平和は危険にさらされます。人々が労働の成果を公正に得られないと、不平等な社会基盤が生まれ、平和を維持する必要が生じます。国民に幸福を保証できない政府は、平和を名目に国民を抑え込もうとするに違いありません。暴力と対立、資源をめぐる争い、失業問題、不正と不平等に対して人々の間に広がる怒り、政府による抑圧などが存在する場所で、私たちが必ず目にするのは貧困です。貧困の前では平和は脆く砕けやすい存在なのです。

貧困は、労働軽視の社会を象徴するものです。貧困は人間性を奪い、人の自由を奪います。人道に対して妥協を許すものは、いかなるものも受け入れることはできません。貧困は誤りです。なぜならそれは、社会が暴力の永続を許していることを意味するからです。平和が乱れることを容認すること——それこそが貧困の持つ意味なのです。

今日における暴力はしばしば抽象的な存在です。それは国家や地方のボスによる暴力ではありません。官僚主義的な社会体制に沿わない生き方を破壊すること、それが暴力なのです。女性たちの仕事の中には法的な認知を受けていないものが多々あります。また官庁が考える職業分類に合致せず、公的な認知には適さないものもあります。そうした分類の仕方が持つ乱暴さと無関心さに対抗しながら、女性たちは仕事に奮闘しているのです。そうした官庁の認識を改めることは、SEWA が進める平和活動の要素のひとつです。働いても貧困から抜け出すことのできない国内の大多数の人々の存在に対して公的な認知が与えられないとき、そこには生き残ることだけを目的とする限界社会が生まれます。女性たちの仕事は、彼女たちとその家族、そして彼らが大切にしている平和が続くことを保証するものなのです。

暴力に訴えることは反道徳的な行為です。立派な目標を達成しようとするのであれば、なおさら暴力は効率の良い手段とは言えません。平和は人間にとって自然な状態です。愛や真実や信頼、そして人間にとって自然な優しい触れあいを求め、人は一生をスタートさせます。つまり、平和そのものが大きな力であることは、紛れもない事実なのです。もちろん

ん、それは物珍しい考えでもなければ、革新的な考えでもありません。また、既存の秩序を脅かすものでもありません。平和はすべての宗教によって支持されている概念なのです。

バガヴァッド・ギーターによれば、救いへの道はカルマであり、カルマは行為や働くことを意味します。まさに愛と真実が人間にとっての基本であるように、働くことは人間の生活の中心であると私は信じています。Work（ワーク）という言葉が想起させる概念はとても広く、それをすべて表すには、その言葉自体があまりに狭すぎることも承知しています。ここで言うワークとは、搾取の一種である劣悪な労働や低賃金労働のことではありません。ワークは「仕事を持つこと」や「生業（なりわい）」という言葉で理解されたほうがよいかもしれません。その意味での「仕事」は、常に生活、ライフサイクル、生活様式、そして世界中の生命につながっています。仕事は生活の中に価値やビジョンを生み出します。そしてそれは地域住民の言葉や庶民による日頃の経済活動を想起させます。仕事なくなると、記憶や能力、さらには共同体や文化が破壊されます。私の言う仕事とは、本質的には食物を育てることであり、水を得ることです。それはすなわち数千年の長きにわたり私たちが培ってきた伝統——農業、畜産、漁業、林業、建築、織物、リサイクル——を発展させることです。こうした仕事は、人々を養い、自分自身や人間同士のつながりを取り戻し、母なる地球、そして私たちの創造主である偉大なる魂との関係を回復するものです。

生産的な仕事は、社会を紡ぎ合わせる糸です。仕事を持っている時、人は安定した社会を維持しようとする動機も持つようになります。未来を考えるだけでなく、未来の設計図を描くことも可能になります。自らの脆弱さを補うために財産を築くことができます。次の世代に投資することもできます。生活とはただ単に生き残ることではなく、より良い未来への投資なのです。仕事は平和を築きます。なぜなら仕事は人々にルーツを与え、共同体を作り、生活に意味と尊厳を与えるからです。

女性は社会創成の「かぎ」であることを、私は経験から申し上げます。女性に注目してください。女性たちは家族のルーツを育て、安定した社会を作るために働きます。女性は、労働者、扶養者、介護者、教育者、そしてネットワークの役割を果たします。女性は絆を結びます。女性は創造し、保護を与えます。女性の参加と代表権は発展のプロセスに不可欠であると私は思います。女性は世界に向けて、建設的、創造的、かつ持続可能な解決方法をもたらします。そうした女性らしさが世界を変えていくことに、私は強い自信を持っています。

SEWA は貧しい自営労働の女性による労働組合です。私たちは労働組合を作り、経済的搾取を阻止するために集まりました。私たちは資産を築き、資源を活用し、物質面の生活の質を向上させるために、自分たちの銀行を作りました。私たちは農業を営む女性や職人の

ための取引協同組合を作り、地域と世界の市場をつなぐ交易促進ネットワークと、出産や健康管理や生命保険のための社会保障ネットワークを開設しました。SEWA はインドの六つの州の範囲を越えた百万人以上のメンバーから成る組織です。私たちは相互補助のために集まっています。私たちのゴールは、貧しい女性とその家族や仕事、その女性の暮らす地域、そして私たちの住むこの世界の全ての人々の福祉の向上です。自由と自立が、私たちの求めているものです。「自由は与えられるものではなく、我々自身の中から生み出されるものである」というマハトマ・ガンディーの言葉を私たちは実現しています。私たち自身から生み出されるその自由を保障することこそが女性の仕事なのだとすることを、私は自分の経験から申し上げたいと思います。

政治の自由は、経済の自由がなければ不完全であるのは明白です。政治と経済の自由が共に保障されている時のみ、私たちは恒久平和を手にすることができるのです。NGO などの市民グループや女性による組織、労働組合、協同組合、同業者組合、そして教会による組織は、すべて平和の建設に欠かすことのできないものです。外交官や軍人は和平交渉を進めることはできます。しかし彼らに平和構築は可能でしょうか。平和を築くことができるのは一般の市民だけなのです。市民の関わりや市民による声、交流、参加、代表者の参画なくして平和は訪れません。平和とは社会にバランスを取り戻すことです。平和は私たちの生活と分離した生き方ではありません。それは私たちの生命や生活に本来備わっているものです。平和とは戦争のない状態や単なる停戦合意や紛争解決ではなく、また国政選挙によって得られるものでもありません。平和は政府が作り出すものではなく、私たちの体や心や自然に調和した生き方そのものなのです。

平和は欲望ではなく、必要から生まれるものです。平和とは限りあることを知ること、例えばロティやパンの最後のひと切れを分かち合う心の広さのことです。平和は国家の建設の前に始まり、その成立後も長く続くものです。平和を仕事や自然から切り離して考えることは、本質的に暴力行為であると私は思います。生活と仕事に命を与えるあらゆるもの、それが平和なのです。

以上が私の考え方です。SEWA のお話をすることで、その説明をさせていただくことができます。SEWA は地域規模の、南アジアだけの話かもしれません。たしかにそれは地域の取り組みですが、グローバルな課題に応えるものでもあります。新たな方法を通して、また新たな社会の中で、いま地域と世界を統合する必要があります。SEWA や、また SEWA と志を同じくするものが、他の地域でもこれから生まれてくるかもしれません。その意味でも、庭野平和賞の受賞は私たちにとってひとつの挑戦であると思います。ダルフルやアフガニスタンやスリランカにおける困難な課題に SEWA はどう応えていくのか、それが今日私たちに与えられた挑戦です。そして、社会や自然に関する女性の考え方を、どうし

たら新しい平和の民の創造に結び付けていけるのか、それが私たちの目下の課題なのです。

その意味で、私の受賞講演をひとつの祈りとして、また平和に向けた一人の女性の仕事として受け取っていただければ幸いです。

私たちはまだ道半ばにあります。しかしその道は明確であり、一步一步が救いをもたらす道であります。庭野平和財団ならびに関係者の皆さまが、この旅の途中にいる私たちに手を差しのべてくださったことに感謝いたします。

オウム シャンティ！シャンティ！シャンティ！（おお、安らぎよ、安らぎよ、安らぎよ）